

2008 年度学術フロンティア推進事業による研究成果の概要

The Outline of Research by the “Academic Frontier” Project in the 2008 Fiscal Year

立命館大学歴史都市防災研究センター 副センター長

Vice-Director, Research Center for Disaster Mitigation
of Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University

吉越 昭久

Secretary-General of the Project, Akihisa YOSHIKOSHI

学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を
自然災害から防御するための学理の構築」幹事長

1. 研究の体系

学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」(代表:土岐憲三)は、4年目を終了した。このプロジェクトでは、学内にある本研究に関係する他のプロジェクトや研究センターと連携をとりながら研究を進めてきた。

そのプロジェクトとしては、グローバル COE プログラムの「歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点」、「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(それ以前の21世紀COEプログラムとして、「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」「京都アートエンターテインメント創成研究」)がある。また科学研究費基盤研究 A「歴史都市における人為的災害からの防御による安全の構築」(代表:吉越昭久)とも相互に連携を進めて研究を実施している。連携を進めている学内の研究センターとしては、本推進事業で立ち上げた「歴史都市防災研究センター」は、もちろん、この研究の主体をなす研究センターであるが、同じ衣笠キャンパスの「アート・リサーチセンター」やびわこ・くさつキャンパスの「防災システム研究センター」もある。このように、学内的には文化遺産の防災にかかわる研究を進めるために、研究のプロジェクト、研究組織・施設は高度に整備されてきた。

また、学外では文化遺産や防災に関係する国内外の大学・研究機関、行政組織などと研究協力を進めており、この整備も実施してきた。

他に、この研究を進める次世代の人材を育成するために、大学院については理工学研究科、文学研究科、政策科学研究科など文理融合型の大学院制度をつくり、本年度から本格的に動き始めた。そこには学部を卒業した通常の大学院生の他に、文化遺産防災の分野で実際に仕事を行っている社会人にも門戸を広げている。また、国際的な人材の育成にもつとめ、アジア地域を中心に、毎年文化遺産と防災の分野の専門家を対象に研修を行ってきており、本年度で3回目を実施した。

2. 研究プロジェクト

本学術フロンティア推進事業では、メンバーを①防災まち(地域)づくりプロジェクト、②文化遺産・芸術作品防災プロジェクト、③防災空間情報プロジェクトの3つに分けて、この推進事業全体のテーマ、各プロジェクトのテーマに沿う形で個人研究・共同研究を進めている。また、メンバーが中心になって、学内外、国内外の研究者と研究会、共同研究を進めている。2008年度の成果については、本報告書に概要と巻末に業績一覧を掲載してあるので、ここで詳しく触れることは省略しておきたい。

3. 今年度実施した企画・事業(研究プロジェクト以外)

(1) 安心安全マップコンテスト

このコンテストは、地域の小学生に地域の安全安心への関心を深めてもらうことを目的にして企画されたもので、本年度で 2 回目の企画になる。前回の昨年度と異なるところは、対象を京都市内の小学校から府内の小学校にまで拡大させたことである。昨年度同様に、小学生と保護者が一緒に、地域の安全安心について調べ、その結果を 1 枚の地図に描いてもらった。応募は、昨年度より大幅に増えたが、応募してきた小学校が限定されてしまったことが課題となった。

応募してきた地図の中には、力作もあって、単なる紙地図だけでなく電気が点滅するような工夫をした立体的な作品も現れた。応募された作品を学内外の専門家に審査してもらい、優秀者に表彰をおこなった。また全ての応募作品を、歴史都市防災研究センターの展示ルームに一定期間展示した。この期間には、通常休館になる土日にも開館して地域の方々や、小学生などにもみてもらえるような対応をした。

(2) 歴史都市研究センター展示ルームにおける展示

前述の安全安心マップの展示のほか、いくつかの企画展(「伝統的左官技術を用いた災害仮設住宅の建設技術開発に関する研究」「近畿の活断層」)、通常展示を行った。現在は、「歴史都市京都で災害から身を守るための自助・公助・共助、パートナーシップ」の企画展を開催中である。

今回は、2009 年 4 月初旬より約 1 ヶ月間、関東大震災に関する企画展を開催すべく準備中である。

(3) 情報発信の整備(ホームページの充実)

昨年度に続き、歴史都市防災研究センターのホームページを充実させることを行った。これまでの研究の蓄積を可能な限り公開したという方針でのぞんでいる。また、センター所蔵の資料類のデータベース化がすんだので、できる限り早く公開をして、利用に供したい。

(4) シンポジウムの開催

12 月 13 日(土)午後、第 4 回文化遺産防災シンポジウム「文化遺産の防災—伝統的建造物群保存地区の防災に関する取り組み—」を開催した。学内外の専門家 5 名による発表があった。このシンポジウムには、上記の関連するプロジェクトなどの後援を得た。

内容的には、京都市消防局企画課長の山内博貴氏による「京都市における文化財防災対策について」、本学理工学部教授の大窪健之氏による南丹市美山町、本学理工学部教授の山崎正史氏による近江八幡市八幡地区、篠山市教育委員会の成田雅俊氏による篠山市篠山地区、橿原市建築課の米村博昭氏による橿原市今井地区の事例が紹介された。これらの地域では住民の通常の生活が行われているためにそれに伴う問題もあり、文化遺産防災の難しさの課題が浮き彫りにされた。会場には、研究者や行政関係者、市民、学生など多くの参加があり、活発な質疑が行われた。

(5) 学外視察の実施

2月24日(火)に、姫路城と鶴林寺(ともに兵庫県にある国宝)を見学し、防災設備などの点検をして、所有者などとの意見を交換した。この企画は、このテーマの研究を実施するには、可能な限り現地視察をする必要があると考え、毎年実施しているものである。今後もこの企画は継続したい。

(6) 外部との研究協力・共同研究

前述のように、学外の大学・研究機関、行政組織、国外の大学・研究機関、行政組織とは、これまで協力関係を築いてきたので、それを最大限に利用して、研究を進めたい。

4. 今後の研究計画

2009年度は、学術フロンティア推進事業の最終年にあたる。このため、研究のまとめと情報発信に関する計画をたてている。研究のまとめに関しては、これまでの研究を総合した上で、とりわけ文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理を構築したい。

この構築した学理に関しては、最終のシンポジウム(12月開催予定)で公表するとともに、報告書、歴史都市防災研究センターホームページなどを通じて公表をしていきたい。

文化遺産の防災にかかわる研究は、本学術フロンティア推進事業の5年間で完結するものではない。前述のように、このテーマに関する研究環境を整えてきたわけであるから、今後とも形を変えながら、様々な協力関係を維持しながらこのテーマに取り組んでいくことになる。